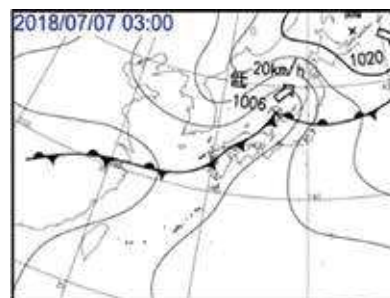
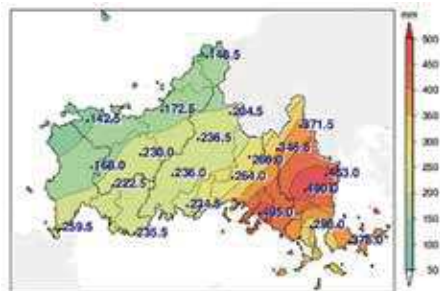




岩国市周東町



天気図(7月7日03時)



総降水量分布図



岩国市周東町



光市小周防



光市小周防

気象の概要	<ul style="list-style-type: none"> 7月5日から6日にかけて、梅雨前線が九州北部地方に停滞した。 3日に東シナ海から対馬海峡を通過し日本海に進んだ台風第7号の影響で、西日本は暖かく湿った空気に覆われ、長時間にわたり大気の状態が非常に不安定となり、山口県では活発化した梅雨前線の影響で記録的な大雨となった。 					
	総降水量(mm)	495.0(下松)	日降水量(mm)	343.0(岩国)	1時間降水量(mm)	86.0(下松)
被災場所	県東部					
被害の規模	(人的被害)死者3名、重傷者3名、軽症者10名 (住家被害)全壊23棟、半壊520棟、一部損壊106棟、床上浸水144棟、床下浸水727棟 (その他被害)道路380箇所、河川428箇所等 <被害額総計>約221億					
被害の特徴	<ul style="list-style-type: none"> 7月5日から8日にかけて断続的に激しい雨が降り、総降水量は、5日から8日にかけて下松(下松市)で495.0mm、玖珂(岩国市)で490.0mmを観測するなど、中部、東部を中心に大雨となった。1時間降水量は、下松で5日2時1分までに86.0mmの猛烈な雨、玖珂で7日2時32分までに76.0mmの非常に激しい雨が降り、観測史上最大となった。24時間降水量は、岩国(岩国市)で7日5時10分までに343.0mmと観測史上最大となり、複数個所で土砂災害が発生し、住家地が被害を受けた。 					

体験談

『早めの避難が命を救う』 光市 自治会長

光市では、7月5日から7月8日にかけて断続的に激しい雨が降り、累計456.0mmの大雨を記録しました。

私が住んでいる小周防新宮地区では、8日未明に島田川が氾濫し、県道光・徳山線が冠水して、一時孤立状態になりました。そして、多くの家屋で床上・床下が浸水し、甚大な被害が発生しました。

消防団員の私は、6日の19時頃に召集がかかり、広報車で地域を回って自主避難を呼びかけました。23時頃には天気が小康状態になったため、いったん解散したのですが、深夜の3時に再度召集がかかりました。その後、午前4時頃から島田川が越水し水が入ってきて、5時には道路が冠水してしまいました。

この7月豪雨を振り返ると、色々な課題があったと思います。

特に、高齢者の避難は大変少なく、支援体制が不十分だったと感じました。高齢者には、避難に必要な情報が届かず、避難の判断や、自力で避難することができない方が多くいらっしゃり、安心・安全に避難できるシステムの構築が必要であることを痛感した次第です。

そんな中、地域でも、災害直後だからこそ出来ることを協力してやろうということになり、避難体制づくりをすすめていくこととしました。

まず、自分達の住まいや地域が危険な場所にあるのか、地域全体の災害リスクの確認や、避難場所等を理解した上で、高齢者も含めた地域住民が避難できるよう、呼びかけあって避難するグループを作りました。その後、実際に避難訓練に取り組み、訓練後にはみんなで振り返って、そこで出た改善点や意見を次回の訓練に活かすなど、災害時の「逃げ遅れゼロ」の実現を目指して地域一丸となって頑張っています。

地域で取り組むにはいろいろな課題がありますが、避難体制を作って訓練をすることで、地域の結束がより強固になったと感じています。

周防地区には、単位自治会が13地区あります。他の地区でも、避難体制を作る取り組みが進むよう、早めの避難を心がけてくれるようお手伝いをしていきたいと思っています。



虹川交差点付近



1.5m以上の浸水



島田川付近の住家の塀



さいがいじ
災害時には、「自分は大丈夫」という思い込みに陥りやすいから、家族や地域で呼び
かけ合って、危険な状況になる前に安全な場所に避難しよう。
おちい
ひなん